

電源メーカーの和晃技研が 東京事務所の営業力強化へ

非常用電源など各種電源メーカーとして知られる「和晃技研株式会社」(京都市南区西九条豊田町26番地、岩崎隆二社長、☎075-681-6291)はこのほど、東京・秋葉原駅近くにある「関東事業部」の営業活動を強化する方針を明らかにした。

岩崎社長は、「東日本大震災で被災した関東・東北に生産拠点を持つ半導体・鉄鋼・電機・食品などの製造メーカーを対象に、今後優先的に電源装置を供給することで、速やかな生産拠点の復旧支援に貢献したい」と抱負を述べている。

関東事業部は室蘭市を除く北海道～静岡県まで、京都本社は室蘭市と愛知県～沖縄県までを営業範囲としてカバーしていく。自家発始動用蓄電池充電装置、非常照明用電源装置、パッケージ自動消火装置、



自家発始動用蓄電池充電装置の製作風景 (京都本社工場)

半導体工場向け直流無停電電源装置、製鉄所向け大容量直流電源装置、非常用電源装置、各種蓄電池、バッテリー関連商品などの供給拡大を図っていく。

関東事業部はJR秋葉原駅昭和通り口から徒歩5分。所在地は東京都千代田区神田松永町22番地 たか庄ビル2階。商品などの問い合わせは☎03-5294-6223～4まで。

昭和機器工業 高精度デジタル液面計を拡販 鋼製の一重殻埋設タンク用

昭和機器工業株式会社(福岡市博多区博多駅前4-33-32、☎092-431-5131)はこのほど、高精度な検知機能を備えた液面計の製品として、「磁歪(じわい)式デジタル液面計2タイプ」を積極的に販売していく。平成23年2月1日の総務省令及び総務省告示の一部改正により、腐食のおそれが高い鋼製の一重殻タンク(二重殻タンクは除く)については、常時監視のための高精度液面計等の設置が義務づけられた。これら液面計はその適用可能製品とされている。

製品は、ガソリン・軽油・灯油・A重油を貯蔵している地下に直接埋設された「鋼製の一重殻タンク」を常時監視するための装置として開発された。給油所など埋設タンクが複数ある施設用として「磁歪式デジタルスーパービジョンDSV X-1」、また、病院や工場など埋設タンクが1本の施設用として「磁歪式デジタル液面計T-1」の2タイプがある。昭和機器工業では、全国各地の販売網を駆使して、積極的に売り込みを図っていく。

製品の特長として、①目視では発見しにくい直径0.3mm以下の開口部からの漏れを常時監視でき、漏れを検知できること。②磁歪式液面センサーには水検知専用フロートが標準装備され、タンク底部にたまった水量をリアルタイムで検知できること。③タンク底部より約40mmから検知を開始し、水位が約50mmを超えると「注意」、約80mmを超えると「警報」の2段階警報を発する仕組みとしたこと。④DSV X-1、T-1はいずれも法定漏えい検査の点検機器として、全国危険物安全協会より性能評価「第15-2号」を取得済みであること、などがあげられる。

問い合わせは☎03-3716-5777。



じわい 磁歪式液面計 DSV T-1